

議 事 録

件 名	第 29 回高齢者の安全対策委員会	
日 時	令和 4 年 12 月 21 日（水）15：20～16：40	
場 所	えーるピア久留米 209 研修室、210・211 研修室	
出席者	委 員	濱本委員長、近藤副委員長、桑島委員、羽江委員、高尾委員、松岡委員、村田委員、藤原委員、藤木委員、野口委員
	事務局	植松補佐、上野、坂本（長寿支援課）
欠 席 者	内田委員、漆原委員、上村委員、柴尾委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 正副委員長選出（209 研修室） 2. 事前指導（210・211 研修室） （1）開会 （2）出席者紹介 （3）プレゼンテーション （4）質疑応答 （5）閉会	
質 疑	1. 正副委員長選出 質疑なし 2. 事前指導 質疑なし（助言・意見あり）	
指 摘 事 項 等	No.	助言・指摘事項・課題
	1	チヨ先生 教育や啓発、知識を高める取り組みなど様々な取り組みをされている。本人の体力維持はもちろん、家族にもアプローチされており、非常に効果を生み出していることが理解できた。 環境の改善について、前はあったのでおそらく取り組みされていると思うが、今回は言及されていなかったように思うので知りたい。 家の中でこうしたら転倒しづらくなるということや仕組み・制度などを伝えることで高齢者の方も生活しやすくなると思う。 本番に向け、そういった情報を入れてはどうだろうか。 転倒予防体操を一生懸命されていても、他の要因が影響している場合もあるかと思うので、対策委員会から情報提供をしていくことによって、「転倒予防体操をしているのに高齢者がケガをした」といったことが防げるのではないかな。 合わせて、生活チェックをみていくと「こういうことはできているけど、転倒予防をしないといけないな」と導きやすくなる。 自分の生活状況も判断しやすくなると思う。そういったところを検討すると、今よりも、より多くの方が取り組むきっかけになるのではないかな。

議 事 録

No.	助言・指摘事項・課題
1	ワン先生 様々な取り組みをされていて心強く思いました。 高齢者の安全は、これだけやれば大丈夫というのは多分ないと思う。いろんな方向から見ていくことが大切なのだろうと、今日の報告を見ながら改めて思いました。 老後を考え、いかに受けとめるかが大切なのかと思う。自分自身のことをみても、自分は強くはならないけど、少なくともこの状況や、これからどんどん自分が老化していくだろうという中で、それをどのように受けとめて、健康に生活していくかという態度が非常に求められると、日々思います 20代のように健康に過ごすためには、何を補ってあげればいいのか考えたときに、ケガしにくいような環境であれば、健康で生活できると思う。 そこをどうするか。体操とか転倒予防体操もそのうちの一つ。 今までと同様に生活するためには、どういう方法をとったら、安心した暮らしができるか考えていくと、高齢者に対しては、環境や食べ物などいろんなアプローチができるのではないかな。 人生は三つの期間に分かれると言われています。 まず子供の時の成長期と、あと働く世代の成人期（労働年齢層）そして、高齢者という表現がいいかどうかと思うが、高齢者。 65歳になる前から取り組むことが大切だということを、市民の方々に知っていただくことが大切だと思う。 みなさんが掲げている、「転倒予防」と「お風呂での溺れ」、あと「高齢者虐待」の三つの大きなテーマについてはおそらく繋がっている方も多いのではないかな。 安全に関する取り組みや問題に光をあてているが、おそらくそれぞれが、後ろで繋がっていると考えると、高齢者虐待に取り組んでいる方だけではなく、転倒予防を行っている方などいろんな方たちと一緒に取り組めるのではないかな。

議 事 録

No.	助言・指摘事項・課題
	二つ目に 働き盛りの方や子供は外の地域に出ることがあると思うが、高齢者の方は、結構地域に根差して生活をされている。 そう考えたときに、高齢者の方が安全に過ごせる地域を考えることは、地域がすごく安全だということにつながると思う。 だから、そのためにどのような条件が必要なのかを考えるのはとても大切だと思いました。 例えば地域で助け合うとか、支え合うとかといった共助やそういう社会的な環境が整っていれば、もし万が一何かあったとしても高齢者の方々も安全に生活できますよね。 そう考えたとき、高齢者の安全性は地域の安全そのものではないかと思うので、より広がりが出てくると思います。 そういった視点で、見ていくことができるのではないのでしょうか。